# 「不登校支援」から「多様な学び支援」へ

奈良市の多様な学び支援の在り方について　概要版No.1

奈良市教育センター　教育支援課

## 不登校施策の背景

◆ **国の教育政策**

教育機会確保法（H28年12月）
不登校児童生徒への支援の在り方について（R元年10月）
生徒指導提要（改訂版）（R4年12月）
COCOLOプラン（R5年3月）

◆ **奈良市教育振興基本計画**

Society 5.0/SDGs時代に対応した子どもの育成
「みずから学ぶ子」「とことん学ぶ子」「つながり学ぶ子」

## 奈良市の現状

令和５年度に本市で実施したアンケート調査から、

- ☑ **不登校の要因**として「身体の不調」「生活リズムの乱れ」「勉強・授業」「友だちや先生との関係」「学校行事・クラブ活動・学校のルール」など**多様化・複合化**しています。
- ☑ 学校に行きにくいといった悩みを「家族に相談する」という児童生徒の割合が約７割と最も高く、その次に多いのが「学校の先生」や「学校の友達」です。しかし同時に、**家族以外の人に相談することのハードルの高さ**も現れています。
- ☑ 学校に行きづらさを感じている子どもをもつ**保護者の不安感**は高く、そして多岐にわたっています。

## 基本理念の転換

- ✓ **不登校は誰もがなりうることである**
- ✓ **学校（通常の学級）復帰のみを支援の目標としない**
- ✓ **多様な学びの場を整える必要がある**

## 「不登校支援」から「多様な学び支援」へ

**従来の「不登校支援」**

**学校復帰**

- ✕ 不登校を「問題行動」と捉える
- ✕ 学校（通常の学級）が唯一の学びの場
- ✕ 学校（通常の学級）復帰のみを目標とする
- ✕ 対症療法的な支援

→

**これからの「多様な学び支援」**

**社会的自立**

- ✓ 誰もがなりうる状況として理解
- ✓ 多様な学びの場を認め尊重
- ✓ 社会的な自立を目標とする
- ✓ 個別最適化された継続的支援

**不登校は特別なことではありません。**それぞれの子どもの実態に応じた**多様な学びの選択肢を検討し**、**社会的な自立に向けたサポート**を行っていきます。

# 学校における取組と市教育委員会の支援体制 奈良市の多様な学び支援の在り方について 概要版No.2

奈良市教育センター 教育支援課

## これからの多様な学び支援に向けて

- 子どもの実態に応じた個別最適な支援
- ICTの活用
- 関係機関や地域との連携

## 学校における取組

### 個別の支援計画の作成

スクールカウンセラー等
専門家との協働アセスメント

個別支援シートの組織的活用

### 家庭との連携強化

相談しやすい環境づくり
個別の丁寧なつながりの構築
多様な学びの情報提供

### 支援のための組織体制づくり

校内サポートルーム等の整備
オンラインによる学習支援
地域資源との積極的連携

### 早期発見／進路支援

スクリーニング活用と早期対応
SOSの出し方教育の充実
多様な進路情報の提供と支援

## 市教育委員会における取組

### 教育支援センター・公設フリースクールの機能強化

不登校児童生徒に対する専門的な支援拠点として、心理相談や学習支援の充実
教育支援センター・公設フリースクール運営の充実

### 保護者支援・教職員研修の充実

保護者の会の実施や情報提供
教職員研修の充実
スクールカウンセラー配置などの相談支援体制の整備

### 民間フリースクールとの連携

民間フリースクールとの連携による多様な学びの場の確保
学校と支援機関の情報共有体制の整備

## 学校外の学びに係る指導要録上の出席扱いとする目安について

### フリースクール等への通学の場合

- 学校・保護者・フリースクール間の **連携・協力関係の構築**
- 月1回以上の **状況報告** と定期的な連絡
- **支援内容・方法** の明示と適切な支援実施
- **支援スタッフの専門性**の確保

### 自宅でのICT等を用いた学習の場合

- 学校と保護者の間の **協力関係の構築**
- 月1回以上の **対面による指導・支援** の実施
- **アセスメントに基づく**学習活動の提供
- **ICTツールやプリントなど多様な教材活用**

**子ども一人ひとりの実態に応じた、社会的な自立を支援することを大切にします**